

# ホタル舞う町の 守り人たち



昨年6月に町内で開催された「第48回全国ホタル研究会」。町内各地でホタルの保護活動を行う組織を中心に結成された「川根本町ほたるの会」や関係者が、全国から訪れた研究者や保護団体のおもてなしに尽力し、大会は大盛況のうちに閉幕しました。

町内各地では、今年もたくさんのホタルが乱舞し「はかなくも美しい光」を私たちに届けてくれました。ふるさとの灯を絶やさぬよう、ホタルが飛び交う環境の保全をひたむきに続ける「守り人」たちの思いに迫ります。



## 集落で守り育てる憩いの水辺 富沢ホタルの里 (崎平区)

もともと、富沢集落には山からの湧き水が流れる小川があり、そこから水を引いていた水田にホタルが飛んでいました。その水田が使われなくなることから、約20年前に「富沢ホタルの里」が整備され、現在まで集落の住民が中心となって保全活動を担っています。

集落の高齢化と過疎化が進み、年間を通じた幼虫の養殖や年数回の草刈りなどの保全活動は大変です。それでも、毎年ホタルを楽しみにしていただいている方々のために続けていきたいと思っています。この幻想的で懐かしい風景を、より多くの皆さんに見に来ていただきたいと願っています。



「富沢ホタルの里振興会」  
(左から)  
櫻木 孝至 さん(崎平区 = 65歳)  
三谷 正一 さん(崎平区 = 76歳)



# 南アルプス接岨大吊橋 (接岨区)

吊橋の上からの眺めは、まるで「天の川」



接岨区の皆さん(左から)  
 中村 俊行 さん(接岨区=66歳)  
 長嶋 勝 さん(接岨区=73歳)  
 村松 明 さん(接岨区=47歳)



7年前に、地区の生涯学習推進事業として、区内の別箇所のビオトープにて幼虫の放流を始めました。この大吊橋付近でも、2年前から放流を実施しています。ホタルの飛び環境づくりには、区民同士や区民と見物客との交流を深めるコミュニティの場づくりのためにホタルが一役買ってくれば、という思いで取り組んでいます。

今年は爆発的に飛翔数が増えたため、見物客も急増しました。少し戸惑いもありますが、多くの方が見に来てくれるのはありがたいことです。今後は区民と見物客の双方が気持ちよく過ごせる受け入れ体制をつくっていかねばと感じています。



昔は水田をはじめ水辺が点在しておりホタルがよく見られた徳山区でしたが、約40年前にその姿が消えてしまいました。もう一度、何より子どもたちにその美しい光を見せてあげたいと願い、地区の有志でときどんの池自然観察公園やホタルドームの造成、ホタルの幼虫の養殖活動などに取り組んできました。

毎年、中川根第一小の児童が幼虫の飼育とホタルドームへの放流活動と一緒に参加してくれているほか、6月の鑑賞会でもにぎやかな声を響かせてくれていて、うれしく思っています。

今年はドームの外の水路でも数匹が飛ぶようになり、さらなる繁殖に期待しています。



「ときどんの池ホタルの会」  
 (左から)  
 鈴木 俊三 さん(徳山区=72歳)  
 井上 政之 さん(徳山区=79歳)  
 橋本 務 さん(徳山区=93歳)  
 西原 弘 さん(徳山区=77歳)

地域の子どもたちとつくる復活の光

## ときどんの池ホタルドーム (徳山区)